

HANDMADE FILMS
presents

軍服を捨て、真赤なドレスを着て、
兵士は伝説の魔少女になった。

風たちの叫び

1988年カンヌ映画祭正式出品作品
出演＝ボブ・ホスキンス
デクスター・フレッチャー
ゾーイナゼンソン ゾーイワナメイカー
撮影＝フランク・ティディ・ブスク
音楽＝ジム・ロダン・ムブス
製作総指揮＝ジョージ・ハリソン デニス・オブライエン

監督＝ボブ・ホスキンス
脚本＝ボブ・ホスキンス

ニコール・デ・ワイルド
製作＝ボブ・ワイズ

1987年/イギリス/ビスタサイズ/カラー

1時間43分

配給＝株式会社ソノセツ



ポプ・ホスキンス第二回監督作品。

ある時代のある国で、
大切なものを守るために戦った人々の
愛と勇気の伝説。

▼解説▲

この作品は、全ての生きる人々の敵である『戦争』から逃げ延びようとする『或る集団』の、勇気ある物語である。

イギリスで最も人気のある俳優の一人、ポプ・ホスキンスは、『モナリザ』の成功（1986年カンヌ映画祭最優秀主演男優賞受賞）で、それまでより一層忙しく、一つの映画から別の映画へと休みなく出演してきた。しかし俳優業のみに飽き足らず、彼は今回仲間達と共に監督という別の立場から新鮮な映画を作り上げた。この作品はホスキンスの非常に澄んだ瞳と、自由な発想で作られている。

「私が言いたい事は戦争は戦争は全て敵であるという事。そして、人々は信じられない程に、根本的には勇敢なのです。」

この映画では普通の人々が、立派な人々とはいえないけれども、彼らの子供の命を守り、自分自身も生きぬこうと、闘争の中へ力を合わせて立ち向かってゆく。起りうるすべての危機や困難に打ち勝とうとするのです。

とはいえ、『戦争映画』に見えるのは冒頭のシーンだけである。全体を通して問いかけてくるものは、『戦争が人々に何をしたか?』についてである。その後に残されてゆく多くの恐怖、そのもの自体は目に見えない。しかし、『敵』は、常に存在するものとして残っていくのである。



映画の中の主人公たちは旅人であるという意味でジプシーであり、人々の善意により生業を立てて暮らしている。ジプシーのリーダー役にポプ・ホスキンス自らが演じ、ジェシー役を『モナリザ』でも（ホスキンスの）娘役として出演していたゾイー・ナゼンソン、そしてジェシーの恋人、戦争の恐怖に打ちのめされた若者トムを、『エレファント・マン』、『レボリューション』、『カラバツジョ』のテクスター・フレッチャーが演じている。



The Raggedy Rawney

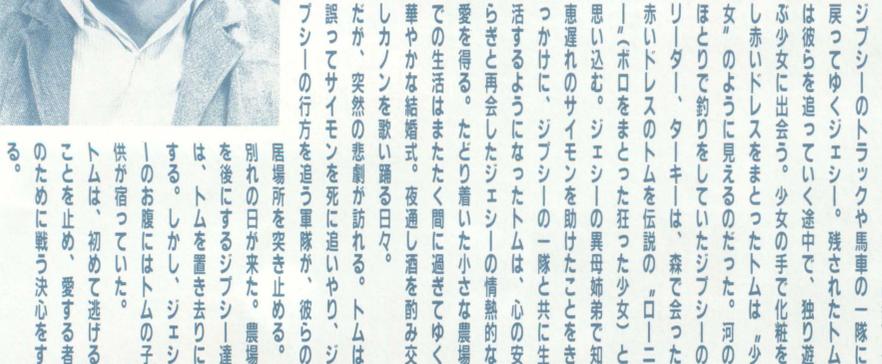
▼ストーリー▲

いつの時代とも知れない、長い間の血なまぐさい戦いで荒れ果ててしまった国で……。

小さな駐屯地で腫に恐怖の影を写した一人の新兵が仲間言葉に聞き入っていた。

一人の将校が彼らに近づいた、その直後、突然の地獄がやってきた。砲弾が炸裂し、死者と負傷者の苦痛の叫びが闇をつんざいた。あまりの恐怖に圧倒されたトムは、将校を傷つけ夜の闇の中に狂ったように逃げ込んでゆく。翌朝、目覚めたトムは傍らに居たのはやさしい瞳をしたジプシーの娘ジェシーだった。出発するジプシーのトラックや馬車の一隊に戻ってゆくジェシー。残されたトムは彼らを追ってゆく途中で、独り遊ぶ少女に出会う。少女の手で化粧をし赤いドレスをまとったトムは、少女のように見えるのだった。河のほとりて釣りをしていたジプシーのリーダー、ターキーは、森で会った赤いドレスのトムを伝説の『ローニー』（ホロをまとった狂った少女）と思ひ込む。ジェシーの異母弟で知恵遅れのサイモンを助けたことをきっかけに、ジプシーの一隊と共に生活するようになったトムは、心の安らぎと再会したジェシーの情熱的な愛を得る。たどり着いた小さな農場での生活はまたたく間に過ぎてゆく。華やかな結婚式。夜通し酒を酌み交しカノンを歌い踊る日々。

だが、突然の悲劇が訪れる。トムは誤ってサイモンを死に追いやり、ジプシーの行方を追う軍隊が、彼らの居場所を突き止める。別れの日が来た。農場を後にするジプシー達は、トムを置き去りにする。しかし、ジェシーのお腹にはトムの子供が宿っていた。トムは、初めて逃げることを止め、愛する者のために戦う決心をする。



CINE VIVANT

シネ・ヴィヴァン・六本木
地下鉄六本木駅下車1番出口 WAVE 地下1階
お問い合わせ ☎03(403)8061

9月中旬より独占ロードショー!

特別鑑賞券1,300円絶賛発売中

特別鑑賞券は都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ、セゾン系各劇場にてお求めください。

連	日	④のみ		
12:00	2:20	4:40	7:00	9:10(終映10:53)

●自由席定員制・入替制